

お茶の水女子大 矢部 章彦
千葉大 ○市原 栄子

1. 洗淨過程において、汚れの離脱と再沈着とは、相反する2大作用である。これらについて、洗淨力試験法を適用することにより基礎的研究を行ない、実際の意義をあわせ考えた。

2. 再汚染の評価には、①モメン人工汚染布と再汚染用白布とを同一の洗淨びんに入れ、洗淨、汚染を行なう方法、②カーボン汚洗浴を作り、汚洗のみ行なう方法とがある。

①、②2法により再汚染率を求めるとともに、各種洗液ならびにカーボン汚染液による人工汚染布の洗淨効率を求め、これら4つのデータに基づいて、再汚染の問題を、洗淨に関連づけて考察した。

あわせて、汚染洗液のかく拌の影響をしらべた。

3. 各種アニオン洗剤、非イオン洗剤、CMCの各種洗液およびモメン、ナイロンの2種の繊維織物によって行なった実験によれば、

① ①、②2方法による各洗液別の再汚染率の順位はせっけんを除けば、ほぼ一致する。

② 非イオン洗剤の再汚染防止能は、両繊維とも極めて優れている。ただし、エチレンオキサイド付加モル数の小さい場合、とくに高濃度では、モメンにおいて、再汚染率の上昇が顕著である。しかし、汚染浴を予めかく拌することにより、これを防ぐことができる。その他。